数字で見る遠征団

5県19市町村
活動した地域

51企画
遠征団による
7年間のワークショップ企画数

27回
7年間の遠征回数

221名
7年間の遠征団スタッフのべ人数
※東北の学生は含まず

5239名
岩手県の子どもワークショップ参加者数
※2017年2月の見本市来場者含む

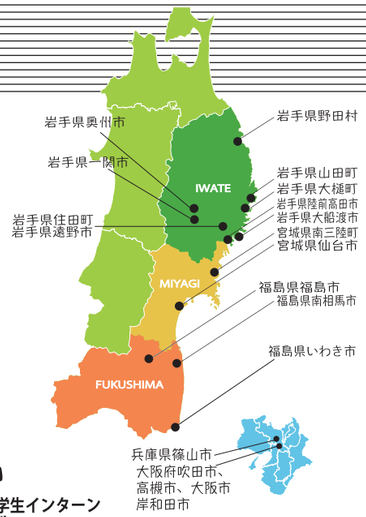
14企画
岩手大学、東北大学など学生によるワークショップ企画数

2105名
福島県の子どもワークショップ参加者数
※南相馬市博、いわき市でのプログラムの体験者含む

15企画
地元博物館、団体によるワークショップ企画数

1184名
宮城県の子どもワークショップ参加者数

3名
東北からの学生インターン受け入れ人数



■活動計算書 2017年12月31日現在

I 経常収益		
受取会費	正会員会費	72,000
	賛助会員会費	108,000
受取寄附金		3,646,384
受取助成金等		7,326,602
事業収益	友の会事業収益	7,658,670
	ミュージアムサービス事業収益	23,183,942
	調査・研究受託事業収益	6,707,830
	普及教育事業収益	13,202,451
	自然保護・自然環境保全に関する事業収益	2,889,119
	施設運営管理事業収益	54,872,385
その他収益		2,490,118
経常収益合計		122,157,501

※受取寄附金には、事業指定のご寄付も全て合算されています

II 経常費用		
事業費	友の会事業費	8,853,420
	ミュージアムサービス事業費	25,680,136
	出版事業費	1,020,600
	調査・研究受託事業収益	5,801,166
	普及教育事業費	14,828,762
	自然保護・自然環境保全に関する事業費	3,538,227
	施設運営管理事業費	52,328,121
管理費	人件費	2,963,666
	その他経費	3,519,148
経常費用合計		118,533,246
当期経常増減額		3,624,255
前期繰越正味財産額		35,681,485
次期繰越正味財産額		39,305,740

■貸借対照表

I 資産の部			
流動資産	現金・預金	16,572,083	
	売掛金	271,157	
	商品	13,478,350	
	立替金	208,872	
	未収入金	19,227,123	
	仮払金	670,595	
流動資産合計			50,428,180
固定資産		2	
差入保証金		577,800	
固定資産合計			577,802
資産の部合計			51,005,982
II 負債・正味財産の部			
流動負債	未払金	1,889,965	
	預り金	7,429,277	
	仮受金	2,381,000	
流動負債合計			11,700,242
負債の部合計			11,700,242
前期繰越正味財産		35,681,485	
当期正味財産増減額		3,624,255	
正味財産の部合計			39,305,740
負債・正味財産合計			51,005,982

たくさんのご寄付と応援に支えられた2017年でした。
その感謝の気持ちを2018年の活動に生かしていきます。
（事務局長・川上 和歌子）

特定非営利活動法人 大阪自然史センター
2017年度決算の概要

ニュースレターを作ることになったきっかけ

これまで応援・ご支援いただいたみなさんにお礼の気持ちをお伝えしたいと想い続けてきました。みなさんへニュースレターを通じてお礼をお伝えしたい、それと同時に私たちが力を入れて頑張っている活動も詳しくお伝えしていこうというのがはじまりです。気持ちがたくさん詰まって、文字の量が多くなってしまいましたが継続は力なり、楽しんでいただけるものをこれからも発行していきます。

編集後記

私に何ができるか、いてもたってもいられずワタワタしていた震災発生直後。博物館の中にも同じようにしていたメンバーが集まりすぐに会議が開かれたのを鮮明に覚えています。まだ子どもが小さかったため、2011年は遠征団の活動を大阪の事務所から後方支援。2012年に初めて南三陸町に遠征団として向かいました。アンモナイトの化石が身近であること、海が生活の一部であるお話を現地で伺い、当たり前ですが関西とは全く違った文化がそこにあることを身を持って知りました。東北遠征団を受け入れてくださった東北各地のみなさん、支援者の方々、活動を一緒に続けてきたスタッフ。繋がりを大切に7年の間続けてくることができた軌跡は、「東北遠征団年表」が物語っているなぁとしみじみと感じました。（上田 裕子）

撮影した膨大な写真を見ると、博物館の再生の過程に寄り添ってきたこの7年間から、私たちが東北の自然と文化への愛着、多くの人間関係と経験値を与えられたことに改めて気づかされます。
（西澤 真樹子）

はくラボ

認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館内
電話 06-6697-6262　FAX 06-6697-6306　www.omnh.net/npo

はくラボ通信 Vol.1
認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター
2018年4月発行

www.facebook.com/naturalhistory.center

@omnh_museumshop

VEGETABLE OIL INK　このパンフレットは環境に配慮したベジタブルオイルインクを使用しています。

はくラボ通信 Vol.1

～何やってるの？ 活動しょうかい～

2011年の東日本大震災。被災した東北の博物館を、博物館のみんなの知恵を絞って応援しようと、主に教育普及に関わる関係者やボランティア、そして東北の学生たちと結成した復興支援グループが「東北遠征団」です。博物館復旧までの時間を「次の活動に向けた準備期間」として生かすため、岩手・宮城・福島の各県で、地域の自然や文化をテーマとした子どもワークショップを企画し実施してきました。

特集 復興支援グループ「東北遠征団」の7年間

この春、あのとき出会った赤ちゃんが小学生に。小学校入学と言えば何となく一区切りです。
この機会に、これまで遠征団に関わってくれた6人のみなさんへのインタビューを通して
私たちの活動をふりかえります。（西澤真樹子）

東北遠征団活動年表

2011

3 月 11 日　東日本大震災発生
3 月 12 日　なにわホネホネ団 ML に高校生（当時）から支援活動の提案
4 月下旬　学芸員と教育普及系スタッフ有志で打合せ、活動について相談
7 月　岩手でのワークショップ実施に向け活動助成金申請
7 月 24 日　博物館友の会主催チャリティイベント開催＠大阪市立自然史博物館
収益（307,638 円）を日本博物館協会と日本赤十字社に寄付
9 月 16 日～18 日　第 1 回遠征（16 名）岩手県遠野市でプレイベント：白石児童館・青笹児童館／参加者 130 名
岩手県下閉伊郡山田町：役場前仮設テント／参加者 280 名　大船渡市：大船渡市立博物館／参加者 320 名
11 月 5 日～6 日　第 2 回遠征（13 名）
陸前高田市：竹駒コミュニティセンター、下閉伊郡大槌町：大槌町中央公民館／参加者 123 名
★岩手大学のサークル「自然史探偵団」が初参加
南三陸町ネイチャーセンターからセンター再興へカを貸してくれる有識者を募るメール

2012

1 月 18 日～19 日　活動のニーズを探るため、宮城県気仙沼市、宮城県南三陸町を視察
1 月 20 日　第一回専門家会議＠南三陸町役場仮設庁舎に参加、センターの再開に向け、普及教育活動の一環として、10 月に町内で子ども向けのイベント開催が決定
2 月　東北遠征団のメーリングリストがはじまる
3 月 17 日『「南三陸町自然環境活用センター」を語るフォーラム』に合わせて復興のイメージ図作成
フォーラムに参加し、書籍とミュージアムグッズの販売を実施
売上から活動費用としてネイチャーセンターに寄付　南三陸の主要メンバーに出会う
6 月 10 日　第 3 回遠征（7 名）福島県いわき市：アクアマリンふくしま／参加者 235 名
7 月 13 日　第一回南三陸ネイチャーセンター復興推進会議　★センター復興のための有志団体「ネイチャーセンター友の会」が立ち上がる
8 月 12 日『南三陸勝手に生物相調査隊』結成、ネイチャーセンター準備室による震災後初の潜水調査にあわせ、宮城県南三陸町にて陸域の生物調査＋標本制作を実施　8/12 ～ 14、9/16 ～ 20、10/15 ～ 17 の 3 回
10 月 13 日～14 日　第 4 回遠征（15 名）宮城県本吉郡南三陸町：歌津平成の森アリーナ／参加者 105 名
戸倉　漁業体験産直施設タブの木／参加者 108 名
12 月 15 日～16 日　第 5 回遠征（15 名）陸前高田市：ふるさとセンター（小友コミュニティセンター）／参加者 100 名
★岩手大学自然史探偵団より 2 名が初参加　大船渡市：大船渡市立博物館／参加者 298 名

2013

1 月 14 日～16 日　第 4 回『南三陸勝手に生物相調査隊』宮城県南三陸町の生物調査を実施
3 月 23 日　第 6 回遠征（5 名）岩手県一関市：芦東山記念館／参加者 93 名
4 月　遠征団のメンバー 1 名が南三陸町観光協会に就職
4 月 4 日～5月28日　西宮市貝類館「南三陸町 自然環境活用センター復興支援展」開催
『勝手に生物相調査隊』と南三陸ネイチャーセンターの動きを紹介
7 月 27 日～28 日　第 7 回遠征（9 名）
宮城県南三陸町：歌津コミュニティ図書館魚竜／参加者 51 名、　戸倉　ホテル観洋／参加者 93 名
8 月 4 日　ネイチャーセンター友の会による子どもワークショップ自主開催　ホテル観洋／参加者 57 名
8 月 8 日～9 日　東北大学総合学術博物館の野外実習「南三陸は魚類化石の宝庫２！」にワークショップ講師で参加、平成の森アリーナにフィールドミュージアムの展示を作成
8 月 10 日　東北大学総合学術博物館で、子どもワークショップによる被災地支援について講義
9 月 14 日　第 8 回遠征（9 名）大船渡市　大船渡市立博物館／参加者 215 名
9 月 18 日～19 日　活動のニーズを探るため、福島県南相馬市、福島市を視察
9 月下旬　★東北大学総合学術博物館に学生による博物館支援団体「みちのく博物楽団」が誕生
10 月　『南三陸勝手に生物相調査隊』旧市街、高台移転先、道路工事予定地、海岸など環境が改変される恐れの高いエリアを中心に生物調査を実施
11 月 23 日～24 日　第 9 回遠征（18 名）
岩手県陸前高田市：米崎コミュニティセンター／参加者 105 名
★陸前高田市立博物館のリクエストによる、せき坊レプリカのワークショップを作成
岩手県下閉伊郡山田町：山田北小学校体育館／参加者 123 名　★みちのく博物楽団が初参加
12 月 7 日～あくあぴあ芥川　企画展「博物館の東北支援」開催、ワークショップも 4 回実施
12 月 14 日　社会貢献型ビジネスの先行事例を表彰する「CB・CSO アワード 2013」優秀賞受賞

2014

1 月 18 日　第 10 回遠征（7 名）岩手県大船渡市　大船渡市立博物館／参加者 112 名
2 月 15 日～16 日　第 11 回遠征（11 名）15 日宮城県仙台市：八木山動物園（大雪のため縮小して実施）参加者 15 名
16 日宮城県南三陸町：南三陸町ポータルセンター／参加者 139 名
★海外から研究者を招き、大人向け講演会を実施
4 月 26 日～6 月 8 日　福島県の南相馬市立博物館で「ふくしまの木のはっぱハンカチ」を制作、企画展『被災地の原野に生きる』の期間中実施／参加者 1294 名
7 月 21 日～23 日　第 12 回遠征（4 名）21 日宮城県南三陸町：南三陸町ポータルセンター／参加者 100 名
22 日『南三陸勝手に生物相調査隊』水生昆虫および淡水魚の調査
8 月 31 日　第 13 回遠征（7 名）
岩手県野田村：野田村生涯学習センター／参加者 77 名
9 月 13 日～14 日　第 14 回遠征（2 名）13 日福島県いわき市：好間第一小学校／参加者 159 名
14 日福島県いわき市：LATOV 一階ホール／参加者 132 名
10 月 7 日「南三陸化石ものしりブック」が町の小学 6 年生の課外授業の資料に採用される
南三陸町に「地学部」が誕生する
11 月 1 日～3 日　第 15 回遠征（6 名）1 日岩手県陸前高田市：小友コミュニティセンター／参加者 50 名
3 日岩手県奥州市：牛の博物館／参加者 429 名

2015

1 月 17 日～18 日　第 16 回遠征（8 名）岩手県住田町　役場　住田町町民ホール／参加者 50 名
18 日岩手県大船渡市：大船渡市立博物館／参加者 100 名
6月 4 日～7 日、7 月 21 日
『南三陸勝手に生物相調査隊』昆虫のトラップ調査、海鳥調査
7月 20 日　第 17 回遠征（9 名）宮城県南三陸町：南三陸町ポータルセンター／参加者 156 名
11 月 1 日～3 日　第 18 回遠征（10 名）1 日岩手県大船渡市：大船渡市立博物館／参加者 300 名
3 日岩手県奥州市：牛の博物館／参加者 604 名
11 月16 日『南三陸勝手に生物相調査隊』町外に保管されていた哺乳類、鳥類の標本調査
12 月 3 日『南三陸勝手に生物相調査隊』町外に保管されていた哺乳類、鳥類の標本整理

2016

1 月 30 日　第 19 回遠征（2 名）福島県いわき市：好間第一小学校／参加者 28 名
7 月 18 日　第 20 回遠征（4 名）宮城県南三陸町：南三陸町ポータルセンター／参加者 158 名
7 月　高槻市で南三陸産の昆虫をソーティングする標本整理チーム「ボンドガール（& ボーイ）」が立ち上がる　この後整理作業を毎月実施
8 月 5 日～7 日　★大阪市立自然史博物館友の会南三陸合宿
9 月 10 日　第 21 回遠征（2 名）福島県いわき市：好間第一小学校／参加者 120 名
11 月 1 日～3 日　第 22 回遠征（8 名）1 日岩手県奥州市：牛の博物館／参加者 453 名
3 日岩手県大船渡市：大船渡市立博物館／参加者 130 名

2017

2 月 24 日～26 日　第 23 回遠征（6 名）
岩手県盛岡市：いわて県民情報交流センター「学生と博物館スタッフが考えた！子どもワークショップ見本市」展を実施／参加者 263 名
4 月～　あくあぴあ芥川 企画展「南三陸勝手に調査隊」展 開催
7 月 15 日　岩手県山田町 鯨と海の科学館が 6 年 4 ケ月ぶりに再開
7 月 17 日　第 24 回遠征（8 名）宮城県南三陸町：南三陸町ポータルセンター／参加者 156 名
8 月 9 日　第 25 回遠征（9 名）岩手県山田町：鯨と海の科学館／参加者 506 名
11 月 1 日～3 日　第 26 回遠征（6 名）3 日岩手県奥州市：牛の博物館／参加者 430 名

2018

1 月 20 日～21 日　第 27 回遠征（7 名）
20 日宮城県南三陸町：南三陸町ベイサイドアリーナ／参加者 60 名
21 日岩手県大船渡市：大船渡市立博物館／参加者 130 名
4 月～　伊丹市昆虫館　「南三陸勝手に調査隊」展　開催

支援者からの声

嶋澤（しまざわ・さとる）　聡さん

きさいち植物園ファンクラブ
東北遠征団応援団／大阪府在住

「嶋澤さんと東北の関わりは？」

東北に行ったことがないのです。ラジオ番組で東北のことに耳を傾けたり、南海トラフのことから次は自分たちかもしれないと感じる気持ちが、震災から時間が経っても、東北へ関心をじわじわとつなぐ要素になっています。

「わたしたちの東北支援の活動を知ったきっかけは？」

震災以前から、(支援活動の母体のひとつである) なにわホネホネ団の活動は知っていました。SNS で発信されているものよりも、「活動報告」や「東北行ってきます！」のお便りなどで知りました。

「震災直後からずっと、私たちへの応援を続けて下さる理由を教えて下さい。」

もともと、ただ好きで好きで美術館博物館巡りをしてきました。ですので、被災した博物館を応援するという遠征団の活動は理解しやすく、スンナリ自分の考えにはまりました。皆さんの活動に連なることになり、たいへん嬉しく思います。切手のカンパをはじめたきっかけは、届いた封書にいろんな切手が貼付けてあり、これなら自分でも持っているから送れるなと思ったからです。

「私たちの活動に一言！」

封書やハガキで届く活動報告が楽しみで、すべて保管しています。毎回異なる封筒だったり、東北の消印で届いていたりすると嬉しいです。今日お持ちして、手元に置いていた東北遠征団の「郵便物」が、皆さんの活動の軌跡を示す「資料」に変わった瞬間を目の当たりにすることになり、とてもいい体験になりました。ぜひこれからも続けてください。

今まで送った活動報告書を全て持って来てくださいました（サプライズの東北遠征団郵便物アーカイブ）

時系列に並べて保管

2011年の初代ワークショップで彩色したアンモナイトの石膏レプリカ

到着日の日付を入れて保管

自分の出してきた封筒との思いもよらない再会にちょっと涙目になる西澤と『このコレクションを喜んでいただいたこと、絶対に忘れません。』と語る嶋澤さん

活動したスタッフの声

①2011 年当時は何をしていましたか？はじめて東北沿岸部に行ったきっかけは？
②現地で印象に残っていることは？
③東北遠征団の活動の魅力は何でしょう？
④これからの東北での活動の計画があれば教えてください。

はじめて訪れた岩手県山田町で。

河原（かわはら・ふうか）　風花さん

なにわホネホネ団／東京都在住

① 震災が起きたのが高校 3 年になる直前で、東北に初めて行ったのは 3 年生の 9 月。センター試験を前に、クラスの皆が完全に受験モードに切り替わった頃でした。きっかけはニュースを見て居ても立ってもいられず、自分に何かできることはないかと、ホネホネ団のメーリングリストにメールを流したことかな。当時は「きっと大人の人がいいアイディアを持ってるはず！」くらいの気持ち。けど、予想以上にいろんな多種多様な意見があって、皆が自分には何ができるのかを考えて、遠征団ができていったのが面白かった。

② 南三陸町の民宿で聞いた、震災の時にどっぽん便所が役に立ったって話。普段の生活は便利だけど、いざと言う時すごく弱いなって思った（大規模震災がおこったらとりあえず皆で便所用の穴掘ろうとも…）。それと郵便局がトラックに ATM 積んで、移動銀行を営業してたのは印象的だった。震災時だけじゃなく、これから過疎地とかでもこういうのが役に立っていくのかも、と時代の最先端を見た気がした。

自然史探偵団は、今年「東日本大震災被災地を主とした社会貢献活動」で岩手大学学生表彰を受賞。沿岸地域における博物館等での活動が、児童への科学や生物に対する興味の促進など将来に向けての地域貢献を十分果たしていると評価されました。
（一番左が小田嶋さん）

小田嶋（おだしま・ゆうき）　祐希さん

岩手大学自然史探偵団初代代表／岩手県在住

① 2011 年は高校 3 年生でした。大学に入った 2012 年から岩手県立博物館での被災標本洗浄ボランティアに通い、その中で、学芸員の鈴木まほろさんから遠征団の活動に行ってみないかと誘われました。

② 初めて参加した 2012 年の 12 月。遠征団と宿で合流するために夜の陸前高田市をカーナビを頼りに車で走っていたが、カーナビの指す道が無く迷ってしまった。ここにあった生活が失われたことを強く実感して、今でも印象に残っています。

③ 学芸員と同じくらい博物館にどっぷり漬かれること。小さい時から博物館に通っていたので、子どもを対象にした活動は楽しく、博物館での活動自体がワクワクします。

・岩手の自然や文化に詳しくなれる。特に沿岸部は馴染みが無かったので新鮮なことばかり。
・情熱を持った人との出会い！

大船渡と山田町での採集と調査から作り上げた「海藻ランタン」。三陸の海を伝える、人気のプログラムです。

④ この 4 月から釜石市で会社員をしています。これまで行った沿岸の博物館も近くなるので、仕事が休みの日はお手伝いに通います。仲間を増やして、ホネホネ団みたいに標本を作ったり、遠征団みたいにワークショップを作るサークルを作りたい。目標は自分の手でクジラの骨格標本を作ることです。

interview インタビュー

現地からの声

①遠征団のワークショップに参加したきっかけと、そのときの印象を教えてください。
②これからの活動に向けてひとこと！

鈴木（すずき・たくや）　卓也さん

南三陸ネイチャーセンター友の会怪鳥、
波伝谷高屋敷ふるさと資料館世話人／宮城県在住

鈴木卓也さんお気に入りの紙ヒコーキプログラム「飛んでけ！コクガン」。イヌワシバージョンでもやりたい！とのこと。

① 2013 年に所属している「南三陸ネイチャーセンター友の会」が遠征団＆ホネホネ団？の全面的な支援のもとに「南三陸で子どもたちに向けた自然史ワークショップをやるぞ～！」となったので、それは良いな～と思って。そして「しっかり広報すればこんないっぱい人が来るんだ！＝この地域でも自然史系のイベントこんなに必要とされてるんだ＝これまで我々あまりにも広報を軽視し過ぎてた！」というのがそのときの正直な印象です。

② 大阪の皆さまにおんぶにだっこでのスタートでしたが、最近はちょっとずつですが自主比率が上がってきたかなと。いまのスタイルが学び合いや交流の場として非常に得難いものであるのは確かです。予算的・意識的な自主比率をどんどん高め、大阪の皆さんをゲストとしてお招きするくらいの勢いで継続していきたいと思いますので、今後ともぜひお付き合いくださいませ！

南三陸ネイチャーセンター友の会の様子。中央が山崎さん、右端が鈴木卓也さん。毎月の定例会で、調査や出張ワークショップの計画などを話し合っています。HP は https://m-inuwashi.jp

①震災直後からずっと、私たちへの応援を続けて下さる理由を教えて下さい。
②私たちの活動に一言！

尾崎（おざき・けむりお）　煙雄さん

千葉県立中央博物館学芸員／千葉県在住

①東北支援の活動を知ったのは、Nature Study 誌か、同封されていた資料か封筒漫画だったかと思います。当時から、博物館員として被災地に貢献できることを考え続けてきました。本当は自分が現地に行って何かできればと思うのですが、足下の仕事に追われてままなりません。西澤さんをはじめ大阪自然史センターの皆さんの活動の数々は「こういうことができたらいいなぁ」と思うことを具現化してくれてきたので、気持ちだけでも参加できればと思って託しております。

②みなさんの活動はエネルギーを持続させているところがえらい。楽しそうですしね。ありがとうございます。

山崎（やまざき・ひろこ）　浩子さん

南三陸ネイチャーセンター友の会副会長
／宮城県在住

① 当時は、他の団体の被災地支援プロジェクトで奮闘していました。2013 年に化石のワークショップに遊びに行ったのが最初です。自分も化石に興味があったし来ていた近所の子どもたちと一緒に楽しみました。こんな活動をしている人たちがいるんだ！と嬉しくなりました。その後縁あって手伝うようになり今に至ります。化石に関するワークショップはバリエーションが豊富で楽しいです。おゆまるでレプリカつくるの好きです。研究者の方に直接話を聞けるのも刺激になりました。配付される「ものしりブック」は南三陸の化石に関する最新の情報が載っていて素晴らしい。

② 今は町で子どもたちの体験活動のスタッフをやっています。あと、化石熱が再燃して地学部をつくりました。地元の素人化石ファンと現役研究者の方や大学生と楽しく調査をしたり化石採集をしたりできるようになりました。夢のようです。こういう楽しさをもっと子どもたちに伝えたいので、ワークショップ勉強中です。これからも○○が好き！楽しい！という笑顔をたくさんつくってください。

山崎さんお気に入りの「化石ものしりブック」。いまでは、町の小学生の地域学習にも教材として使われています。